

良い木は良い実を結び

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 奨励    | 韓 守信〔はん・すしん〕    |
| 奨励者紹介 | 日本キリスト教団長岡京教会牧師 |

「偽預言者を警戒しなさい。彼らは羊の皮を身にまとうてあなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である。あなたがたは、その実で彼らを見分ける。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるだろうか。すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。このように、あなたがたはその実で彼らを見分ける。」

(マタイによる福音書 7章15―20節)

礼拝へと招いてくださった神に心から感謝する

ハレルヤ&イエスは主なり☩なんという挨拶かと思われたのではないのでしょうか。皆さんは礼拝に来られました。神様を賛美するために、このひとときに神様から招かれて集われたのです。「ハレルヤ」とは「主を賛美します」という意味です。そこで、この礼拝で神の御言葉を取り次ぐ者として、皆さんにその言葉をもって挨拶をさせていただきました。

私は長岡京市にあり、日本キリスト教団長岡京教会に牧師として仕えています。私の主たる礼拝の場は長岡京教会です。そこで、バプテスマを受けて神様に自らのすべてを明け渡したクリスチャンが悩みつつ、喜びを抱きつつ、共に集い、主の日（日曜日）の朝に集って礼拝をささげています。その場が私に与えられた主たる礼拝の場所ですので、その場を飛び越えて、この同志社大学京田辺キャンパスの水曜チャペル・アワーに皆さんと共に集って礼拝ができますことは、私自身にとってとても重要でかけがえのないひとときです。小さく弱い存在ですが、聖霊の充満がここにあることを私は確信しています。皆さんに分かりやすく言いますと、私の力をはるかに超えた神の力が、今日ここに立つ私に与えられるものと確信していることです。精一杯の証しを皆さんにお伝えさせていただきます。

今日は天気もいいですね。外で芝生に寝そべったらどんなに気持ちがいいことでしょう。このひとときに皆さんが礼拝に来られたのは、さまざまな理由からでしょう。ただ、このことを知っていただきたいと思います。どの礼拝に出席する場合でも、集った者は神様の導きと招きに応えて集ったということです。すなわち、神様の呼びかけや声かけがなければ、礼拝に集うことができないということです。皆さんはこの時間、神様から選ばれて、この礼拝に集われたということです。このことは、しっかりと心に留めていただければと思います。

この中にどのくらいのクリスチャンがいっしょなのか分かりませんが、礼拝を通してイエス様に出会っていただけたらなと願っています。ここに立つ私だけのために、クリスチャンだけのために、神の独り子が十字架にかかって罪を贖ってくださったわけではありません。皆さんのために、このキャンパスにおられる学生さんや職員さんのために、日本全国、世界のすべての人、一人ひとりのために、神の独り子イエス・キリストが十字架にかかれ、そして罪を贖い、復活の命へと導いてくださっているわけです。皆さんの中にもしクリスチャンでない方がおられるならば、この礼拝をきっかけとしてイエス様に出会っていただき、1日も早く神様の支配と統治に生きるクリスチャンになっていただきたいと祈っています。

神の御言葉に真摯に耳を傾ける

先ほど読んでいただきました聖書の箇所注目しましょう。マタイによる福音書7章15～20節までの御言葉だけを抜き出してみると、チンプンカンプンで分かりにくいと思います。実は、マタイによる福音書5章から7章は、イエス様が最初に働きを始めた時、人々に対してなされたお話です。それを「山上の説教」もしくは「山上の垂訓」と呼んでいます。大勢の群衆がイエス様のもとに集まってきました。イエス様に憧れを抱いている者、興味本位で集った者などをはじめとして、どのくらいの人たちがいたのかは分かりません。しかし、そのすべての人々に対してイエス様が、いろいろな譬えを用いて神様の支配と統治、すなわち神の国（天の国）についてお話になりました。その締め括りの部分に近いのが、先ほど読んでいただいたマタイによる福音書7章15～20節です。

この聖書の箇所は、とりわけクリスチャンに対して語られている神様の御言葉です。ですから、実は、クリスチャンではない方々が礼拝に来られるということを想像するなかで、どのような御言葉を取り次げばいいのか、自分なりに悩みつつ、祈って備えてきました。先ほど言いましたとおり、神様の力、聖霊の充満があることを私は強く信じていますので、小さく弱い器ですが、与えられました聖書の箇所を通して皆さんに神様の御言葉を取り次がせていただきます。その方法として、今日の聖書の箇所から二つの証しを皆さんにお伝えします。

神から与えられている見分ける目を絶えず研ぎ澄ませていく

一つ目は「物事をしっかり見分ける目を養ってほしい」ということです。その目でしっかり見ながら、自分の生きている現場だけではなく、この社会の出来事、人の思いやすべての事々に目を向けながら、正しいことは何なのか、偽りは何なのかを見分ける目を鍛えていっていただきたいということです。そのことを特に15節と16節の御言葉を通して教えられました。

15節と16節を見ますと、「『偽預言者を警戒しなさい。彼らは羊の皮を身にまとうてあなたがたのところに来るが、その内側は貪欲な狼である。あなたがたは、その実で彼らを見分ける』」と記されています。

少し個人的なことをお話します。私は共働きをしています。私は一般的にいう職場が教会で、住居も教会の中にあります。基本的に私の妻よりも時間に融通が利くので、ほぼ毎日スーパーマーケットに行きます。私がお世話になっているスーパーマーケットは、入口のそばに果物のコーナーがあるのですが、果物を通して季節を感じることができます。夏には西瓜がありましたが、秋になった今ではリンゴが並んでいます。葡萄も梨もあります。陳列されている果物を見ながら「秋なんだな」と思われます。果物は健康に良いので買うのですが、私は果物を手に取ってじっくりと「これは傷があるのか、ないのか」と見分けます。消費者ならば誰でも、陳列されている物（商品）から自分が気に入る物（商品）を選び取っていきます。そこには「見分ける目」がともなっています。見分ける目の重要性を私たちは知っています。この見分ける目を物を買う時だけ用いるのではなく、生きていく時も用いていくことが大切です。日々、見分ける目を鍛えていきましょう。養っていきましょう。

生きていくなかで不条理だな、不平等だな、こんなことあってはならないなと感じることができるとするならば、それは神様から見分ける目を与えられているということを意味します。誰かの喜びを自分の喜びとして見ることができる目があるならば、その目は本当に祝福された目であると言えます。残念なことに、この地球には正しいことだけのために生きていく人ばかりではありません。私たちはいろいろな人たちに出会います。そのなかで出会う人たちを裁いてくださいとか、判断してくださいと訴えているではありません。見分ける目をもって生きていくなれば、次に自分がどのような行動をとればいいのか、どのような選択をしたらいいのか、必然的にその道が神様から与えられるということを知ってほしいのです。

この世の最後を聖書ははっきりと語っています。善と悪が裁きに立たされる日が来ます。その日が来るまで、真と偽がごちゃ混ぜになって繰り返されていきます。そういう現実生きる時に、偽の力に飲み込まれてしまうのではなく、自分がいま何を見ているのかということを、見極める目が自分に与えられているということを意識しながら、しっかりと出来事を見ていくことが大切ではないかと思えます。正しいことは正しい、悪いことは悪い、100人いてほかの99人が「黒」と言ったとしても、はっきりと「白」と言えるような勇氣をもつ必要があります。そのためにはしっかりと周りを見ることが不可欠です。皆さんの目は何を見えていますか。自分のことだけを見えていますか。100年後の日本や世界を見据えて物事を見えていますか。そのことが今日の聖書の箇所から問われているような気がします。特に20代前半の皆さんは、これからの社会を支えていく人たちです。私は皆さんより20歳以上年上ですから、普通だと皆さんより先にこの世を去ります。そこで、皆さんにお願いがあります。為政者、医者、弁護士、教授、牧師にかぎらず、世界のいたるところに偽の存在がほびこっています。これからの社会を担っていく存在として、真偽をしっかりと見分ける目を養ってください。すでにおもちの方は、その目をますます研ぎ澄ましてください。以上が第1点目の証しです。

神によって創造された木として成長・成熟する

続きまして二つ目です。今日の聖書の箇所から皆さんにお伝えしたいことは、自分自身がどのような存在なのかを絶えず吟味していきましようということです。聖書の箇所、マタイによる福音書7章15節～20節にある言葉をういて皆さんにお話しすることは、自分自身がどのような木であるのかを丁寧に繰り返し見つめ直し、確認し、吟味し、分析していくことが重要だということです。そのことを特に17節と18節を通して知ることができます。

17節と18節の御言葉を見ますと、「『すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実を結ぶことはなく、また、悪い木が良い実を結ぶこともできない』」と記されています。

私たちの人間は自分の両親を選ぶことができません。生まれる前から自分の両親が定められているということです。別の言い方をすれば、自分自身が生まれてくる環境を選ぶことは決してできないということです。この世の中のいろいろな出来事を見るなかで、自分よりも富める人や美しい人を見ると「いいなあ」と思ったりします。自分よりも立派な人や強い人を見れば「あんな人になりたいな」と思ったりします。このような思いを自分自身を高めていく力にしていくなればいいのですが、悲しいことに、私は富める人や美しい人、立派な人や強い人を見て、「何であの人はああなのか」と不満を言ったりすることがあります。皆さんも私と同じではないですか。授業の点数のいい人や、周囲の人たちに人気のある人を見て「素敵だな」と思うだけでなく、「何であの人だけああなんだろうか」と思うのではないですか。そのような時こそ、今日の聖書の箇所を思い起こしていただきたいと願っています。

今日の聖書の箇所は、私たち人間一人ひとりが1本1本の木であるのかのように、私たちに語りかけています。すなわち、自分自身が与えられている環境、状況、持ち場において、どのような木として成長・成熟をしているのかということを繰り返し吟味し、振り返ることが重要であると、私たちに語っています。旧約聖書の冒頭に創世記があります。創世記1章と2章には、天地万物を神様が創造なされたことが記されています。神様は、人間を創造された時に祝福してくださいました。それと同時に、大切な働きを人間一人ひとりにお与えくださいました。神様は人間を創造されたのちに天地万物をご覧になって、「極めて良かった」と話しておられます。今日の礼拝の後、是非旧約聖書の創世記1章と2章を見ていただきたい

と思います。

そこから私たちがはっきり知ることができるのは、私たちは生まれた時から、創造された時から神様の祝福の内に生かされているということです。神様は土の塵にしかすぎない私たちに、命の息を吹き入れてくださいました。

私たちが生きていく上で大切にすべきことは、他の人との比較ではありません。与えられた持ち場でどのように生きていくのかということです。私たちは、それぞれが美しい木です。それゆえに、神様がお与えくださった土壌にしっかりと根を張り、枝を伸ばし、葉を生い茂らせ、実を結んでいくことが重要です。皆さんは自分自身がどんな木であると思っていますか。これからどのように成長・成熟していきたいですか。これからの時代と社会を担っていく皆さんに、是非そのことを考えていただきたいと思います。そして、これから生まれてくるであろう新しい命に対して、あなたは神様によってこの世に植えられた木であることを知らせるとともに、神様の愛と恵みに生きていく重要性を伝えていただきたいと願っています。

私は、とるに足りない小さく弱い木です。しかし、神様によって植えられた木として、神様のために自分の持ち場で根を張り、枝を伸ばし葉を生い茂らせ、実を結んでいます。皆さんも是非、それぞれの持ち場で、皆さんの罪を贖うために独り子イエス・キリストをこの世に送ってくださった神様を見上げて、神様の愛と恵みに包まれ、神様の知恵と力に押し出されて、神様の養分を十分に吸って成長・成熟する美しい木となってください。自分自身がどのような木であるのかを考えながら、日々の生活をなしてください。以上が第2点目の証しです。

### 神の語りかけに全力で応えていく

この礼拝の中で、私たちは神様の語りかけに耳を傾けました。そのような貴重なひとときに、私は聖霊の充満があることを確信して、神の御言葉を取り次ぎました。その方法として、皆さんに二つの証しをお伝えしました。一つ目は、物事をしっかりと見分ける目を養っていきましょうということです。二つ目は、自分自身がどんな木であるのか考えながら、神様の御手の中で成長・成熟していきましょうということです。皆さんのこれからの歩み、この地上での歩みが終わる時まで、神様の愛と恵みが皆さんを包み、神様の知恵と力が皆さんを押し出してくださるように、イエス・キリストの御名によって心を込めてお祈りします。

2015年10月7日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録